

# 「政府情報システムの整備の在り方に関する研究会」における検討内容

事務局



# 1 背景・目的

- 「三か年緊急プラン」において、「電子政府・電子自治体」の推進は三大重点プロジェクトの1つに位置づけられ、行政の業務・システムについては、全体最適化による更なる行政コストの削減を目指した一層の取組が求められている。
- 「つながった電子行政」を実現すべく、「霞が関クラウド(仮称)」を構築し、全府省横断的に業務及びシステムの最適化を推進することが必要。

## 「デジタル新時代に向けた新たな戦略～三か年緊急プラン～」(平成21年4月9日IT戦略本部決定)

### 第2章 具体的施策

#### I デジタル特区等による三大重点プロジェクトの推進

(プロジェクト1)国民がサービスの利便性を実感できる新しい電子政府・電子自治体の推進

##### 1. 現状と課題

(略)

行政の業務・システムについては、主要システム最適化(刷新)や内部管理業務の見直し(BPR)とシステム化による効率化が進行しているが、その取組は個々の業務やシステムの範囲にとどまっており、全体最適化による更なる行政コストの削減を目指した一層の取組が求められる。

##### 2. 取組の概要

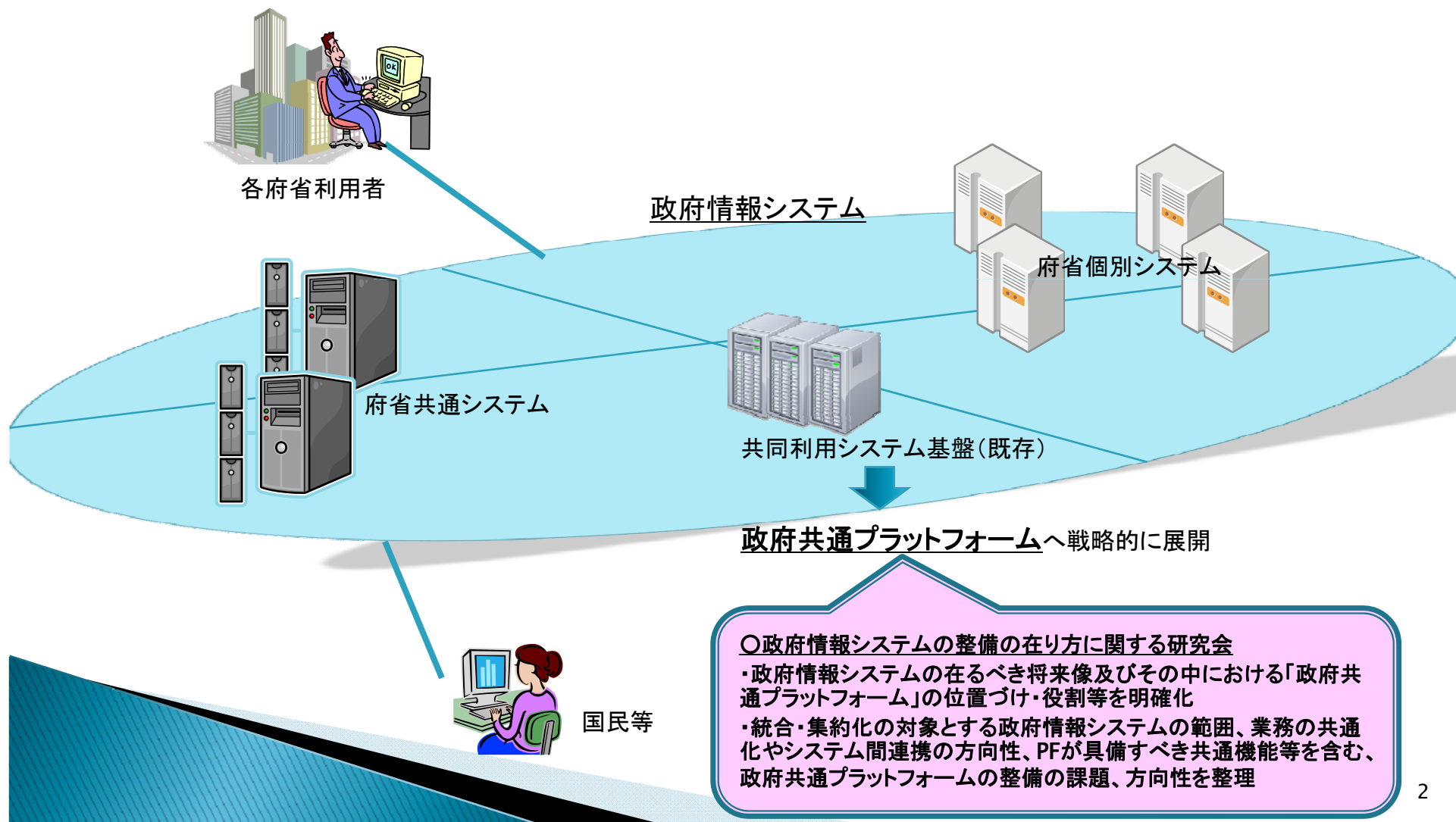
###### (2)つながらない壁の突破

- ⑤ 効率的かつ柔軟でセキュアなシステム構築、開発・運用コストの削減、及び業務の共通化を図るため、将来における地方公共団体のクラウドとの連携も視野に入れつつ、「霞が関クラウド(仮称)」を構築し、全府省横断的に業務及びシステムの最適化を推進する。(略)

クラウド・コンピューティング等の最新の技術の動向及びその導入事例等を踏まえ、政府情報システムの更なる全体最適化を推進すべく、その在るべき将来像を明確化するとともに、政府情報システムの統合・集約化やデータ連携等の基盤となる共通プラットフォームの整備の課題、方向性等について検討

## 2 研究会の検討範囲(スコープ)

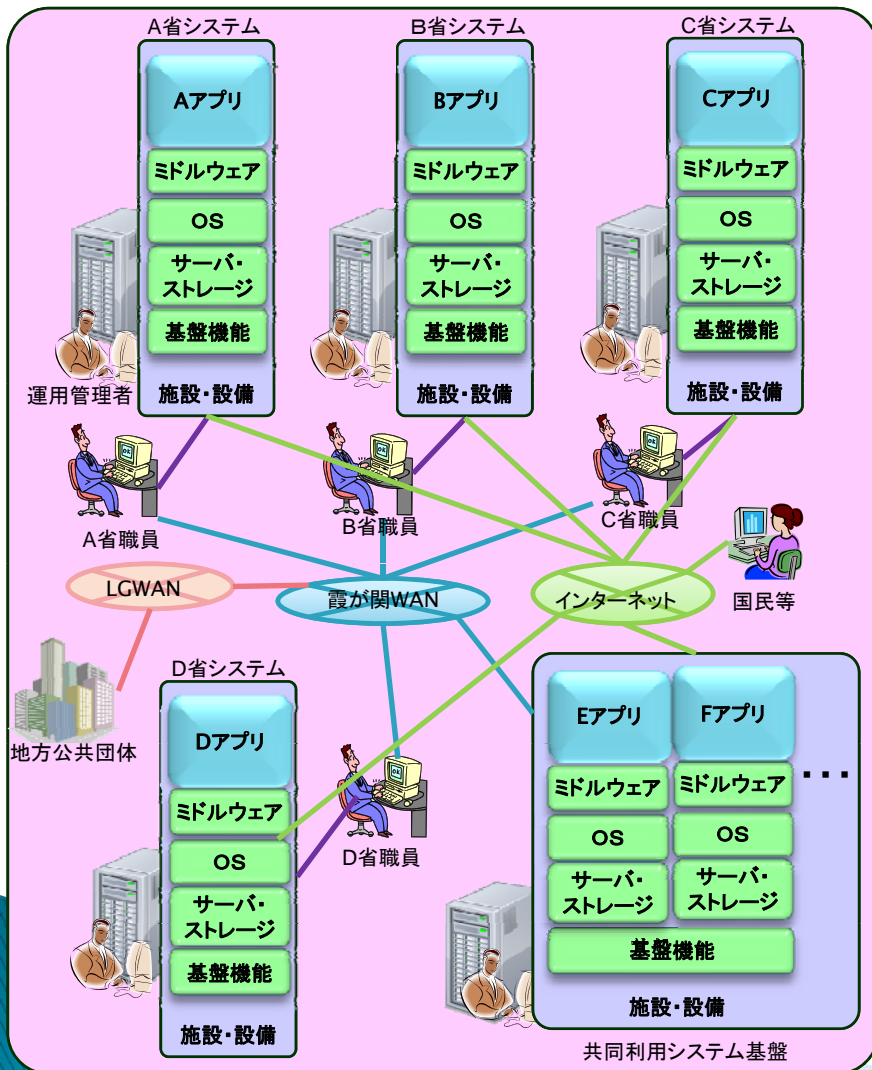
- 政府情報システムの在るべき将来像及びその中における「政府共通プラットフォーム」の位置づけ・役割等を「政府情報システムのグランドデザイン」として明確化。
- 統合・集約化の対象とする政府情報システムの範囲、業務の共通化やシステム間連携の方向性、PFが具備すべき共通機能等を含む、政府共通プラットフォームの整備の課題、方向性を整理。



# 3 政府情報システムの現状、課題

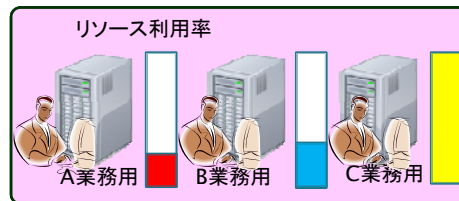
- レガシーシステムのオープン化等、各府省等における業務・システム最適化への取組は着実に進展。
- しかし、その取組は個々の業務やシステムの範囲にとどまっており、全体最適化に向けたさらなる取組が必要。

現状: 各府省ごとに情報システムを整備・運用管理



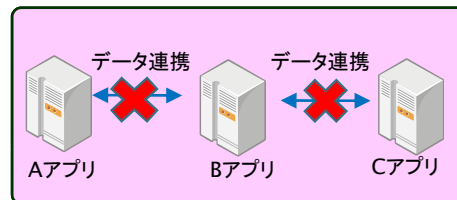
## ハードウェア等のリソースに無駄が発生

・各システムごとに最大利用時を想定し設計をするため、リソースに余剰が発生



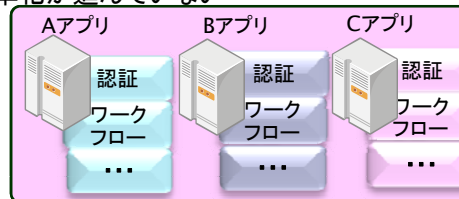
## 進まない情報の利活用・共用

・各システムごとにデータを保有しているため、情報が有効に利活用されていない



## 各アプリケーションごとに異なる業務フロー

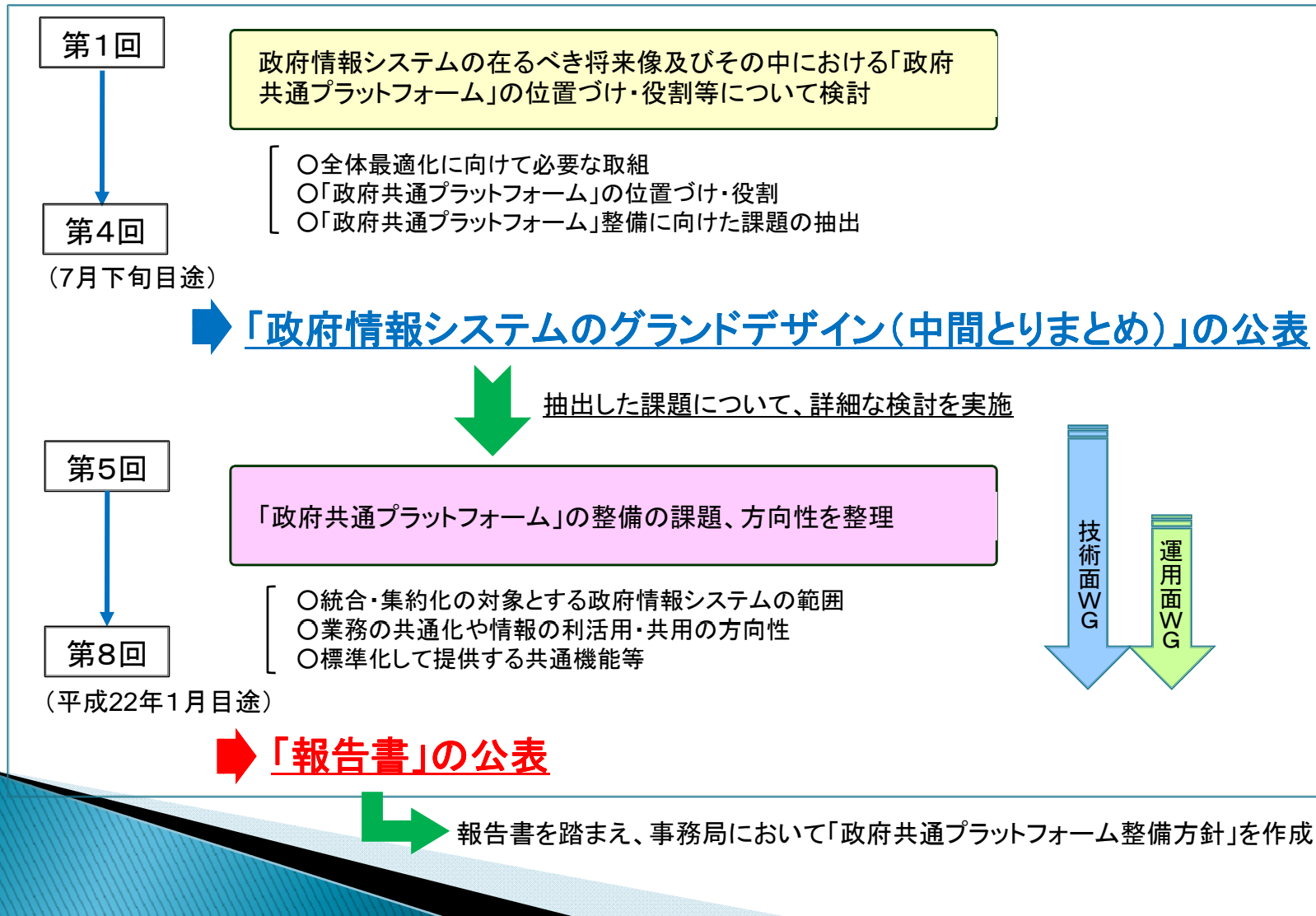
・アプリケーションごとに業務フローが異なり、業務の標準化が進んでいない



**全体最適化に向けたさらなる取組が必要**

# 4 検討の流れ

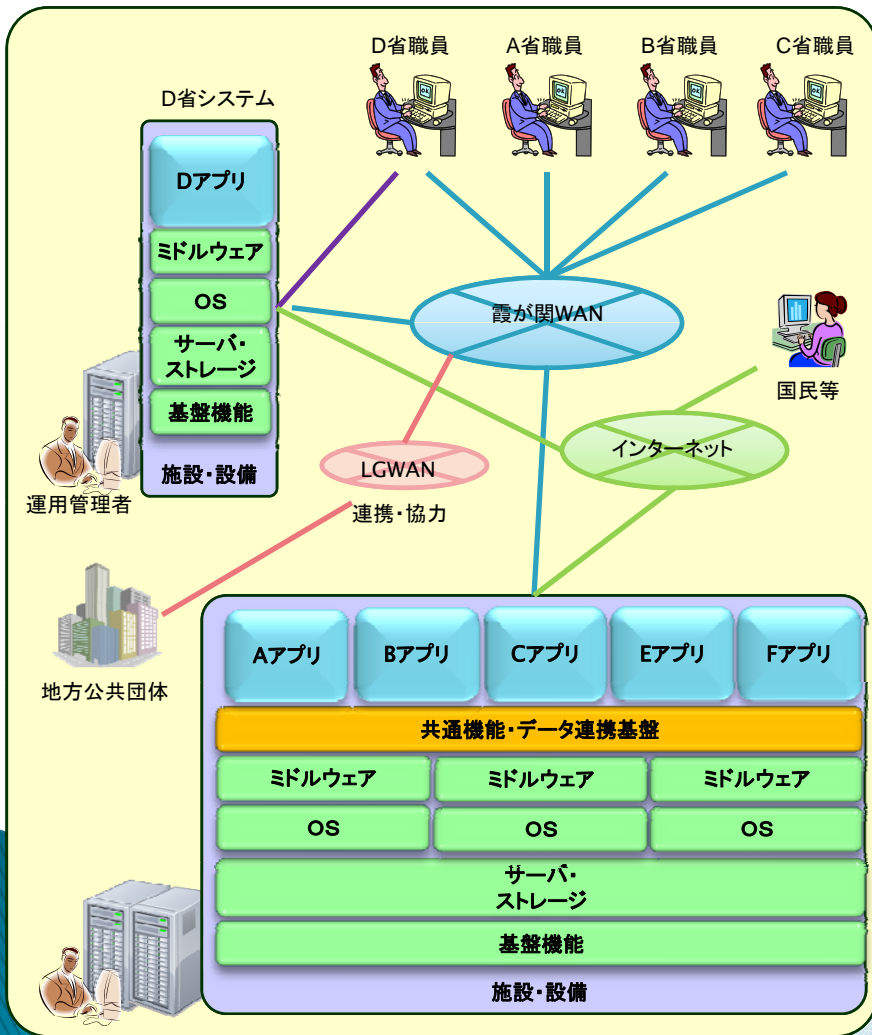
- 平成21年7月を目途に中間とりまとめ、平成22年1月を目途に最終とりまとめを行うことを予定。
- 親会の議論を踏まえつつ、技術面・運用面の課題について詳細な検討を行うため、平成21年7月以降、随時WGを開催することを予定。



# 5 政府情報システムの在るべき将来像

- 政府情報システムの在るべき将来像及びその中における「政府共通プラットフォーム」の位置づけ・役割等を「政府情報システムのグランドデザイン」として明確化。
- 7月下旬を目途に、基本構想と検討課題等を中間とりまとめとして公表。

将来像： 政府の情報システムの統合・集約化



➡ ハードウェア等を統合・集約化し、リソースの有効活用を図るべきではないか

- 仮想化技術等のクラウド・コンピューティング技術の活用
- 情報システムの一元管理
- 運用管理要員・設備の抑制 等

➡ データ連携基盤を整備し、情報の有効な利活用、共用を促進する必要があるのではないか

- データ連携基盤の整備
- 連携インターフェイスの統一
- データ様式等の標準化 等

➡ BPRを推進し、各アプリケーション共通的な機能については標準化すべきではないか

- BPRによる共通機能の標準化
- 共通機能の一元的提供
- 共通機能を活用することによるシステム開発経費の削減 等

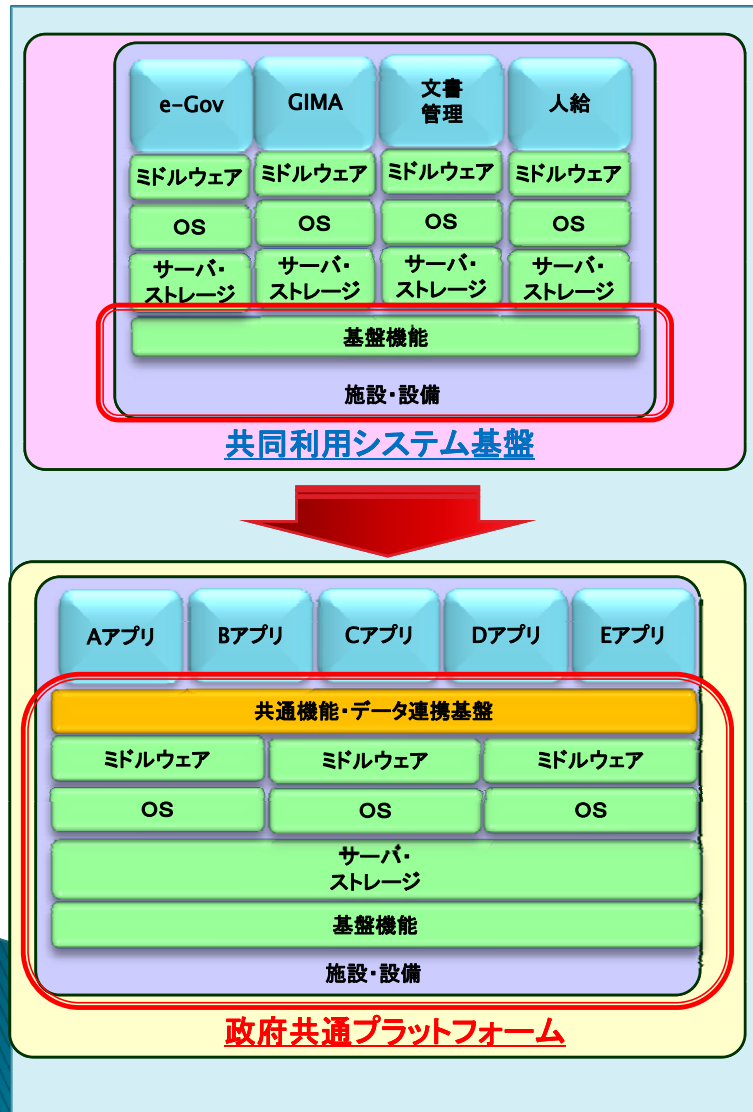
➡ これらを実現するための基盤として、政府共通のプラットフォームを整備することが必要ではないか

↓

「政府共通プラットフォーム」の目的、求められる機能等を要整理

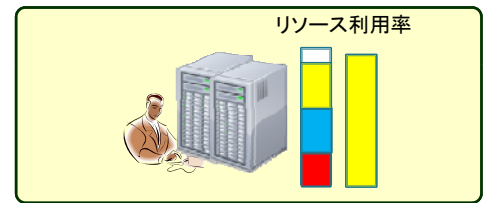
# 6 「政府共通プラットフォーム」整備の課題・方向性

- 統合・集約化の対象とする政府情報システムの範囲、業務の共通化や情報の利活用・共用の方向性、プラットフォームが提供する共通機能等を含む、政府共通プラットフォームの整備の課題、方向性を整理。
- 平成22年1月を目途に報告書を取りまとめ、公表。



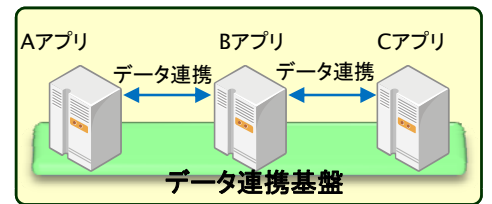
## ハードウェア等の統合・集約化

・物理的な差異を意識することなく、余剰リソースを有効活用することでサーバ台数等を削減



## データ連携基盤を活用した情報の利活用・共用

・データ連携基盤を整備することにより、情報の有効な利活用・共用を促進



## 共通機能の標準化

・BPRを推進し、共通機能を標準化して提供することで、システム開発における重複投資等を抑制



## システム運用経費の削減や業務の効率化等を実現

### 整備に向けて検討を要する課題は何か

- ▶ プラットフォームとして整備するレイヤーの範囲
- ▶ 統合・集約化する政府情報システムの範囲
- ▶ データ連携、情報の利活用・共用の方法
- ▶ 標準化して提供する共通機能
- ▶ 情報を利活用・共用等する際の法制上の課題 等